淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.76　2016 年 12 月発行

==========

〈会員の窓　39〉

火山噴火や大地震は多発している

田中　良和

日本では絶え間なく火山噴火が発生している。1983 年の三宅島雄山の噴火では溶岩流が阿古地区の集落の大半を焼失させた。1985 年の伊豆大島噴火では三原山の山腹で割れ目噴火が発生して赤熱溶岩が流出し、水蒸気爆発も懸念されたので、全島民避難の事態を引き起こした。また、2000 年の三宅島噴火では多量の亜硫酸ガスが噴出して島民は 4 年半に及ぶ避難を余儀なくされ、京都まで硫黄臭が漂い驚いた。私の在住した九州では桜島を筆頭に、1989～90 年の阿蘇、1995～6 年の九重、1990 年に始まる雲仙火山噴火では平成新山が形成され火砕流に巻き込まれて 43 名の死者が出た。その他、霧島や南西諸島の火山活動も活発である。2000 年の有珠火山の爆発的噴火では迅速な住民避難で人的被害は皆無であった。しかし、2014 年の御岳山の爆発的噴火では登山者ら 58 名が死亡し、日本における戦後最悪の火山災害となった。入山者に分かりやすい情報を開示して注意を喚起する必要がある。このように多くの火山噴火が発生しているが人的被害は比較的少ない。その原因として、最近では火山観測が充実して活動推移がある程度把握できること、噴火は場所が限定されることに加えて、ハザードマップが整備され行政や住民の防災意識が高まって避難誘導が迅速に行えるようになったことなどがある。

一方、地震は如何であろうか。1995 年 1 月 17 日に発生した兵庫県南部地震では最大震度 7、家屋の倒壊や火災により 6,437 人もの死者・行方不明者がでた。また、2011 年 3 月 11 日にはＭ9 の東北地方太平洋沖地震が発生した。日本周辺における観測史上最大の地震で、最大震度 7 が観測され、北海道から関東地方にかけて太平洋沿岸部に巨大津波が襲い、死者・行方不明者は約 1 万 9000 人に及ぶ戦後最悪の震災となった。さらに、福島第一原子力発電所で炉心が溶融して大量の放射性物質を撒き散らした事は深刻な問題である。お粗末な安全設計について不信感を拭えない。

その記憶の覚めやらぬ中に 2016 年 4 月 14 日、熊本県大地震が襲い放映される映像に目を疑った。熊本城は大きな損傷を受け、熊本市東部の益城町や布田川断層沿いの西原村で多くの家屋が倒壊した。幸いにも火災の発生は少なくて済んだが、阿蘇地域では立野発電所の貯水池が決壊して斜面崩壊を誘発して阿蘇大橋を崩落させた。筆者の勤務していた研究施設（南阿蘇村）の丘には亀裂が走り、地滑りが生じて麓の新興住宅の多くを倒壊させ、近隣の学生アパートも倒壊して多数の死者が出た。

火山での地殻の減圧はマグマの発生を促す。4 月の熊本地震と 10 月 8 日未明の阿蘇火山噴火の因果関係は不明であるが、爆発的噴火が夜間で、死傷者のなかったことは幸いであった。火口から 1km の立ち入り規制では不十分なことを示している。

大地を形成する地殻は数 10km～数 1000km の板状構造で支えあっている。ある地域での大きな地震の発生は力のバランスを崩し、歪が隣接地域に伝播する。伏見城の天守が倒壊し、京都や堺で 1000 名を超す死者の出た 1596 年の慶長地震では、伊予地震や豊後地震が連動したと考えられる。自室の倒れそうな本棚を見上げつつ、熊本地震が近畿地方の地震活動を刺激しないことを願っている。

（京都大学名誉教授、元理学研究科火山研究センター教授）

イベント案内

（詳細は３～４ページ）

淀川愛好会　総会・新年会2017

日時：2017年１月７日（土）18:00～20:00　　場所：酒処かつみ

近畿河川フォーラム　兼　第19回 淀川討論会

日時：2017年２月25日（土）14:00～19:00　　場所：摂南大学寝屋川ｷｬﾝﾊﾟｽ ｽｶｲﾗｳﾝｼﾞ

イベント報告

第１回・第２回　寝屋川再生ワークショップ

第１回ワークショップは９月 24 日（土）、太泰２号公園にある山新池周辺の竹林などの間伐を行いました。池の西側で茂っていた竹林を徐々に切り倒し、枝を竹の棒で打ち落として運びやすくして、パッカー車に入れました。竹の積み込みが終わり、パッカー車を発進させた時、パッカー車が故障して坂道を上れなくなるというハプニングが起きましたが、間伐することで竹林は明るくなりました。

第２回ワークショップは 12 月３日（土）、寝屋川市上下水道局で山新池の整備について検討や市民作業を実施しました。第１回の報告から始まり、周辺整備のあり方をもとに各班で利活用中心に計画の確認および市民の関わりについて話し合いました。それぞれ、賛成や反対の意見が挙がり、イベントや門扉の管理などの意見も出ました。これらの意見が今後の山新池の整備に活かせたらいいなと思っています。（M・Y）

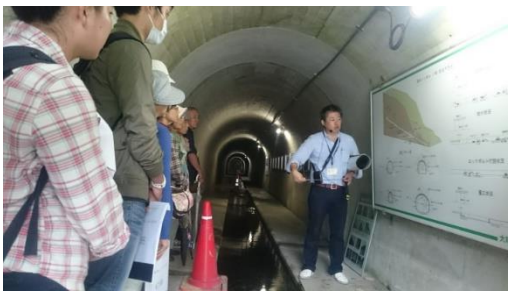
発表の様子

淀川愛好会秋のイベント　～流れは未来へ～ 第９回「大和川の日」 市民のつどい
亀の瀬資料館とトンネル見学会

９月 24 日(土)柏原市にて亀の瀬地すべりの対策工や亀ノ瀬トンネルの見学、亀の瀬地すべり資料室にて見学会がありました。奈良県の亀の瀬で発生した大規模な地すべりの歴史、実際おこなった地すべり対策工の説明を聞いた上で見に行きました。

約 50 年かけて対策工事を行ったことや工事を進めていくと埋まっていた旧国鉄関西線のトンネルが発見されたことを知りました。トンネル内には実際に地すべりが起こった痕跡が残っており、恐怖を感じました。地すべりの被害想定区域も広大なものでこの地すべり対策工事は人々を守る工事だったと印象を受けました。

私たちは来年から公務員になるのですが、国民が安心して暮らせる街をつくりたいという気持ちがより一層高まりました。(K・O、Y・K)



トンネル内での説明の様子

第６回 川の恵みを活かすフォーラム

10 月 15 日（土）、16 日（日）に京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーにて、第６回川の恵みを活かすフォーラムが開催されました。１日目は、様々な河川団体が集まり、それぞれの河川でアユについて行っている活動や成果を報告するフォーラムが行われました。私たちは芥川のアユの遡上について報告しました。２日目は、琵琶湖・淀川水系でとれたアユや他の魚を実際に食べてみようという食味会が行われました。アユは鴨川、桂川、宇治川、木津川、九頭竜川、耳川、天竜川からとってきたものがふるまわれ、どの川のアユもとてもおいしくいただきました。アユ以外の魚では、コイ、ビワマス、アマゴ、ニジマス、ブラックバスなどを食べました。あまり食べたことのない魚ばかりでしたが、また食べたいと思いました。（Y・T）

鯉をさばく様子

アユのフライ

鯉の蒲焼

アユの塩焼き

平成 28 年度 点野水辺づくりワークショップ（第２回）

10 月 22 日（土）13 時から「平成 28 年度点野水辺づくりワークショップ」が開催されました。三島江野草地区の見学し，バスで点野野草地区へ移動した後、淀川水系でも有数の「親水空間」をつくるにはどうすればいいのか、また、そうするにはどんな課題が出てくるのかを話し合いました。このワークショップでは、デザイン検討に向けた勉強会として、先行的に河川公園内での切り下げ事例である「三島江野草地区」に様々な点を学びました。第３回点野ワークショップは年度内に開催は決まっているので、興味がある方はぜひ参加してみてください。（S・Y）

河川レンジャーからの説明

クリーンリバー寝屋川作戦・秋

11月6日(日)、午前9時から12時までの間で、クリーンリバー寝屋川作戦・秋が寝屋川市内の10ヶ所で行われました。秋のクリーンリバーは雨で中止なることが多かったそうですが、今回は380名の参加者があり、無事に行うことができました。萱島駅前を担当しましたが、沢山の自転車の部品や投網が川の中に沈んでいました。ただ今回はリピーターの方が言われるには、ゴミはいつもより少ないとおっしゃっていたので、クリーンリバーの活動が少しずつでも実っているのではと思います。（K・O）

清掃の様子

横大路まちづくりフェスティバル　（第７回 桂川・草津みなと はも海道まつり）

11月6日(日)、京都市伏見区横大路桂川羽束師橋東詰め河川敷にて開催されました。気温が低くて風も強く、しかも他のイベントと重なっていたため、エコシビル部員が少ない中で行われた活動でした。Ｅボートを漕いでいても川の流れに負けてしまって帰ってくるのに時間がかかったり、胴長を履いてＥボート運搬の補助を行っている人たちの身体が冷えているのに人手不足で誰かと交代することもできず、体調を崩してしまうのではないかと心配でした。今後寒い中でのイベントがある時は今回の反省点を活かしていきます。Ｅボートに乗られたお客様は大人と子どものどちらも多く、満足していただいたようで、嬉しく思っています。（H・M）

第４回　カヌーでつなぐ「琵琶湖・淀川流域圏」～1,450万人・水のえん～

11月20日(日)、26日(土)、27日(日)の３日間で開催されました。20日は笠置町～京田辺市まで、26日は京田辺市・京都市伏見区～寝屋川市点野まで、27日は寝屋川市点野～大阪ふれあいの水辺までカヌーで下る行事でした。私は漕いでいませんが、26日は天候も良く、カヌーを漕いでいた皆さん全員楽しそうでした。松尾芭蕉や一寸法師、淀君のコスチュームを着ながらカヌーに乗るというのがとても面白かったなと思います。27日は雨天にも関わらず行事を強行して大変でした。（M・U）

今後のイベント詳細

淀川愛好会　総会・新年会 2017

淀川愛好会の総会・新年会を下記のように企画しました。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2017年１月７日(土) 18:00～20:00

場所：酒処かつみ

寝屋川市東大利町４-15

京阪本線 寝屋川市駅から西へ300m

電話番号：072-826-7574

申し込み締め切り：2017年1月５日（木）　事務局まで　（参加費3000円）

近畿河川フォーラム　兼　第19回 淀川討論会※

日時　　2017年２月25日（土）14：00～19：00

場所　　摂南大学寝屋川キャンパス11号館11階スカイラウンジ

（京阪電車「寝屋川市」駅から京阪バスで約12 分または、JR「茨木」駅・阪急電車「茨木市」駅より京阪バスで約30 分。摂南大学下車。外来者駐車場有。）

プログラム

14：00～14：05　開会挨拶　淀川愛好会会長　澤井健二

14：05～14：20　河川協力団体全国協議会のうごき

14：20～14：50　河川協力団体近畿連絡会の主旨・規約等の確認

14：50～15：05　国土交通省近畿地方整備局からの情報提供

15：15～17：00　報告・意見交換

河川協力団体および関係団体からの報告

（５団体程度）と意見交換

【テーマ】

・河川協力団体として何が課題と考えているか

・山川海をつなぐ問題

・活動の継続性（いかに若手に引き継いでいくか）

17：30～19：00　交流会（会費3000円　場所同じ）

申し込み締め切り：２月10日（金）事務局まで

※これまでのところ、淀川愛好会は河川協力団体の指定を受けていませんが、この制度には強い関心を抱いています。今回の淀川討論会を河川協力団体近畿連絡会の近畿河川フォーラムとのジョイント企画とすることにより、双方にとっての相乗効果が挙がることを期待しています。

〈会員の窓　40〉

感じたこと

渡部　瑞貴

私は摂南大学に入学し、建築について学ぶうちに大学の近くにたくさんある水路に興味を持つようになりました。そんなときに淀川水系と環境学習の活動を知り、参加させていただくようになりました。

他にもたくさんの活動に参加しましたが、春は外来魚駆除のイベントに参加しました。魚の種類や生態などを知り、子どもだけでなく大人も無邪気に笑って楽しんでいたのは私にとって新鮮な光景でした。川はどんな世代の人にも愛されているのだなと思ったきっかけでした。

夏に参加した天若湖アートプロジェクトは、ダムが建設されたことによって姿を消した集落を記憶として残し、これからに繋げていくためのイベントでした。その中心プログラムであるインスタレーションのあかりは暗く静かな場で小さくも強く輝いていて、心を動かされる素晴らしいものでした。ダムを建設することによって得られる「豊かさ」は、当たり前にしてはいけないと思いました。水に対する意識が変わりました。

秋のクリーンリバーで目にしたゴミは腐敗が進んで原形を留めていないものから、最近捨てられたものまで多くあり、未だに川にものを捨てる人がいるのだという現実を知りました。どのように呼びかければ、この現状は良くなっていくのか、私たちは様々な観点から考えていかなければならないのだと考えられるようになったのはここでの経験があったからです。とても良い経験をさせていただいたと感じています。

川の活動に参加するようになって８ヶ月と短く、知らないことが多くあります。川について知らないことやまだ発見できていない川の魅力、川と係わる人たちの活動について学んでいこうと思います。

（摂南大学　理工学部　建築学科　３回生・ＰＢＬプロジェクト履修生）

==========

編集後記

淀川愛好会の活動は、年々活発になり、さらにその場は広がりつつあります。ところがこのような状況下で、いろいろな企画（本会主催、他団体との共催・連携、さらに賛同企画など）が、今年に入ってからの尋常ではない気象変動の影響を受けることがありましたが、会員、摂南大学の学生たち、関係者、そして参加市民らが一丸となっての密なる連携で実施することができました。さらにこれは学生たちの労を厭わない活動があればこそできたことだと思っています。

皆さまと会の益々の発展を願って、元気で新年、酉年を迎えましょう。

編集長　相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）

淀川愛好会事務局：〒572-8508寝屋川市池田中町17-８　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：　http://www. setsunan. ac. jp/civ/yodoric

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp